

令和7年一番茶情勢について

令和7年5月12日現在
J A 静岡経済連 茶業課

1 気象状況

- (1) 気温は、3月～4月は平年より高めに推移しましたが、5月上旬は平年を下回りました。
- (2) 降水量は、3月～4月は平年を下回りましたが、5月上旬は平年を上回りました。

2 生産状況

- (1) 早場所及び中間場所は、大手茶商との契約生産を一部残し大方終了、山間地・遅場所は、盛期を過ぎ終盤となっています。碾茶生産は5月下旬まで続く見込みです。
- (2) 計画よりも早めに生産を終了する工場が多く見られました。現時点でも例年より反収が少ない状態が続いています。
- (3) 連続降雨や急激な気温上昇がないことから、生産後半でも荒茶品質は安定しています。
- (4) 前年比20%前後の減産との声が多く聞かれますが、前年からの茶栽培面積の増減、碾茶工場等への生葉移動、前年の生産量等、工場間の差が大きく、一概に20%前後の減産とは言えない状況です。しかし、同一圃場で見れば反収は少ない傾向であり、また、大きな山のない生産となっていることから、県下荒茶生産量は前年(10,000t)を下回る見込みです。

3 流通状況

- (1) 現在の取引価格は、平坦地(主に深蒸し煎茶)で、1,000円台半ば、山間地(主に普通煎茶)は、2,000円台～1,000円台後半となっています。
- (2) 1,000円台に入ってから積極的な仕入れが続いています。1,500円以上はやや買い疲れ感があり価格の下げを望む茶商も見られますが、供給不足から価格変動は小幅で推移しています。
- (3) 被覆茶(被覆期間の短いもの)は1,000円台後半～2,000円台、山間地のかぶせ茶は3,000円台後半～4,000円台で取引されており、前年を上回る価格となっています。
- (4) 有機栽培茶も引き合いが強く、前年以上の価格で取引されています。有機碾茶は不足感から、県外産の仕入れに動く茶商が見られます。
- (5) 需要に応じた荒茶は、希望価格での取引が実現しています。
- (6) 県下荒茶平均価格は、前年(1,763円)を上回る見込みです。

4 茶市場取引状況

(単位: kg・円/kg・%)

項目		令和7年(5/12現在)		令和6年最終		前年比	
		数量	単価	数量	単価	数量	単価
静岡茶市場	県内産	370,692	2,114	624,372	1,591	59.4	132.9
	県外産	233,698	2,230	300,672	1,794	77.7	124.3
鹿児島茶市場		2,048,254	2,309	2,552,387	1,771	80.2	130.4

(株)静岡茶市場情報(5月12日現在)

入札コーナーには連日の出品があり、有機栽培茶・品種茶に加え香り緑茶や出物(棒・粉)、紅茶などの出品も増えています。

入札に参加する買手様も増え、投札数や落札率も上がっていますので、特に引き合いの強い下物の煎茶の出品もお待ちしています。